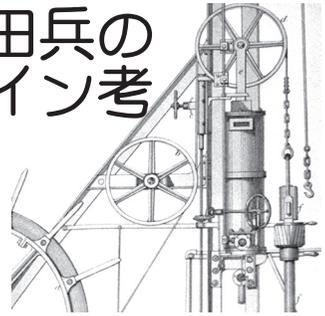


# 屯田兵の デザイン考



## 新琴似屯田兵中隊本部の鬼瓦

札幌市北区新琴似8条3丁目  
4～11月の火・木・土曜日  
午前10時～午後4時開館



(明治19年創建)

屋根に合わせる  
てトタン張  
りなのは、純  
北海道仕様だ  
が、何よりも  
天に向かつて  
ツンと伸びた  
一本角が目を  
引く。鎌倉・  
長保寺などご  
く一部でしか  
見ることがで

きない「希少種」で、雪が積もりにくく  
する意図があったのかも知れない。  
全体の印象は、かなりシンプルにデ  
フォルメされていて、鬼瓦の印象が薄れ  
ただ分だけアートなイメージが残る。曲線  
的な鬘たてかみと鋭角的な牙のシンメトリーな配  
置には、和魂洋才を目指そうとした制作  
者の高邁な野心  
さえ感じ取るこ  
とができる。  
屋根の三角形の部分を飾る破風板も幾  
何学的な意匠で、日本や中国に特有な  
懸魚げぎよ（火除けのまじないとして水に縁の  
深い魚を彫刻したものが原形）は逆四角  
錐にまで簡略化され洋風な匂いが漂う。  
新琴似より二年早い野幌の中隊本部  
は、外観から構造、細部にわたって類似  
した姉妹建築だが、鬼瓦と破風のデザイ  
ンには微妙な違いの味付けが施されてい  
る。西洋の技術に学ぶ時代から、独自の  
日本建築へ。外来様式に染まりきらず  
に、自由にモディファイしていこうとす  
る明治のデザイナーの心意気が、屯田兵  
の建物にも見つけることができた。 ㊦

積雪のために屋根瓦を使うことがほと  
んどない北海道では、本州などではごく  
一般的な鬼瓦ともあまり縁がない。  
ところが、どうだろう。札幌市の有形  
文化財として新琴似神社の境内に保存さ  
れている屯田兵中隊本部の玄関先に立つ  
と、ぐつとにらみをきかせた鬼が、訪問  
者を出迎えてく  
れる。  
もつとも、こ

## 一本角に和魂洋才を見た

者の高邁な野心  
さえ感じ取るこ  
とができる。